低侵襲手術の進歩 ～より精緻（せいち）な手術を目指して～

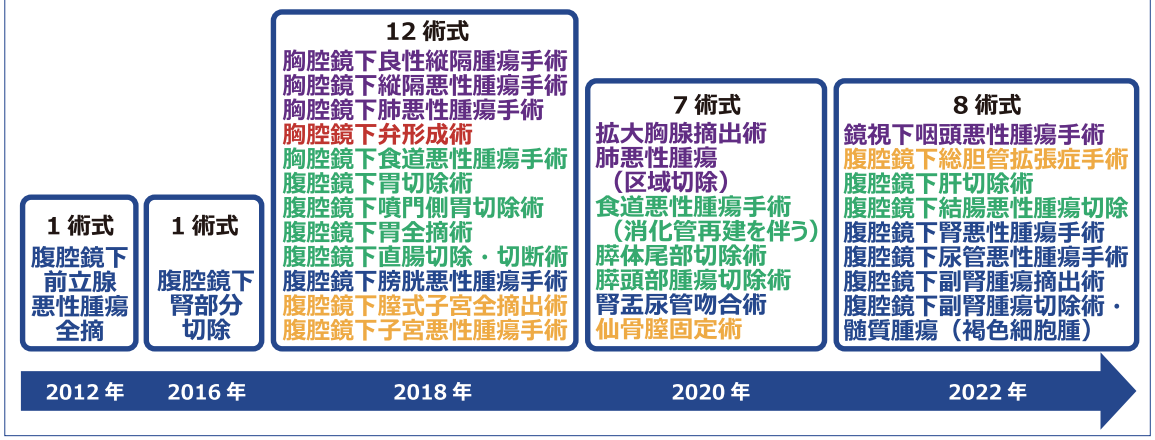
腹 腔鏡下手術からロボット支援下手術へ

副病院長 兼 消化器外科主任部長
兼 診療支援局長 兼 がん治療センター長
兼 がん相談支援センター長
種村　匡弘

当院では癌の進行度、癌の根治性を最大限に考慮し、患者さんの年齢、合併症の有無などを検討した上で、適切な症例に腹腔鏡下手術など低侵襲手術を積極的に実施してまいりました。2023年 12月より手術支援ロボット『**ダビンチ**（da Vinci Xi）』を導入しロボット支援下手術を開始し、腹腔鏡下手術・ロボット支援下手術の二本立てで低侵襲手術を展開することで、より精緻な手術を患者さんに提供してまいります。

腹腔鏡下手術、ロボット支援下手術では術後疼痛の軽減、術後回復期間の短縮（入院期間の短縮につながります）、および手術創感染・腸閉塞などの術後合併症の回避が期待されます。当院での腹腔鏡下手術、ロボット支援下手術では、内視鏡外科技術認定医が術者あるいは指導的助手として**手術の安全実施を第一に**、低侵襲手術の普及・実施に努めてまいります。さらに、次世代を担う優秀な若手外科医の育成と病院全体のチーム力強化に取り組んでまいります。

従来の腹腔鏡下手術と比較したロボット手術のメリットとして、安定した高解像度の三次元画像による視覚化の向上、多関節を有する自由度の高い鉗子操作、モーションスケーリング※および手振れ防止機能により腹腔内、骨盤内の狭い術野での正確な鉗子操作が可能なことが挙げられます。このような機能により従来の腹腔鏡下手術よりも精密で、高い安全性が担保された手術治療が可能になることが期待されます。これら医療技術の進歩を受け、本邦では 2022 年 4 月現在、上図に示す 29 術式まで保険収載術式となり、担当診療科は消化器外科、泌尿器科、呼吸器外科など多くの診療科に広がっています。今後もロボット手術の適応拡大が進んでいくものと考えています。



当院でのロボット支援下手術導入の具体的な計画は、2023 年 12 月初旬にダビンチ器材の納品が行われ、同月中に泌尿器科による前立腺手術と、消化器外科による大腸切除手術にてロボット支援手術を開始いたします。当院では、写真にあるようにロボット手術実施診療科医師、看護師、臨床工学技士、事務職員、ロボットメーカーとが緊密に連携し、**安心してロボット手術を受けていただける**よう取り組んでいます。

今後も広報誌「RINKU SMILE」などを介して、当院でのロボット手術の状況を適時、情報提供してまいります。

※モーションスケーリング：人間の手の動きを1.5分の1、2 分の1、3 分の1のスケールに縮小してロボットアームに伝える機能

DaVinciワーキングの様子

日本内視鏡外科学会 内視鏡外科技術認定医

■消化器外科
柏﨑正樹（肝胆膵）
三宅正和（大腸）
古川陽菜（胃）
市川善章（大腸）

■泌尿器科
射場昭典（泌尿器）